

第17回現地研修会の開催

はじめに

当機構の現地研修会は、賛助会員による道路等に関する事業の現場見学を目的として、平成元年より継続して実施しています。今回は、7月14日(木)～15日(金)に開催しました。昨年に引き続き愛知万国博覧会と本年3月に開通した東海環状自動車道を中心に見学しました。

今回の研修会は、総勢39名の参加となりましたが、好天にも恵まれ、順調に日程を消化することができました。

研修会行程は、以下のとおりです。

(1日目)

名古屋駅集合→名古屋大学工学部→東海環状自動車道・東海北陸道→岐阜(宿)

(2日目)

岐阜(宿)→東海北陸道・東海環状自動車道・猿投グリーン道路→愛知万博瀬戸会場→長久手会場→名古屋駅解散

名古屋大学工学部 (P-DRGS コンソーシアム)

名古屋大学では、産学6機関が連携した組織P-DRGS コンソーシアムの研究開発について説明を受けました。

P-DRGS コンソーシアムでは、車か

らの情報(プローブ情報)を最大限活用し、動的経路案内などの交通情報として加工・提供する技術の開発と事業化をめざしており、近未来型ナビシステム「PRONAVI(プロナビ)」として大規模モニター実証実験が行われています。説明の後、模擬システムによる検索などの体験をしました。

東海環状自動車道

東海環状自動車道は、名古屋市周辺30～40キロ圏に位置する豊田・瀬戸・四日市等の諸都市を連絡する環状道路です。本年3月に豊田東JCT～美濃関JCT73キロが一挙に開通しました。東海環状自動車道には、名古屋都市圏諸都市の連携強化、名古屋港や中部国際空港へのアクセス性向上などいろいろな機能があります。愛知万博のマイカー利用来場者の主要なアクセス道路となり、「愛・地球博」を支援しました。

東海環状自動車道をバスで走行しながら事業概要の説明をしていただき、美濃加茂IC/SAのハイウェイオアシスを見学しました。



PRONAVIの体験(名古屋大学)

愛知万博会場

愛・地球博は、9月30日をもって大盛況の内に閉幕しましたが、私たちの訪れた7月15日の時点で、すでに夏休み前にもかかわらず大変な混雑となっていました。まず、瀬戸会場において「自律移動支援システム」*の説明を受け、センサー付きの白杖とユビキタスコミュニケーションの体験をしてもらいました。(本誌12ページに関連記事)

次に、長久手会場にモリゾーゴンドラで移動しました。人気のパビリオンは、どこも長蛇の列となっており、1時間以上の待ち時間も珍しくないという状況でした。

*視覚障害者及び車いす使用者にパビリオンまでのコースや多目的トイレなどの各施設の使い方を説明させるシステム

(総務部総務課)

第5回 ITS 欧州会議 (ITS Hannover 2005) 報告

はじめに

第5回 ITS 欧州会議が、平成17年6月1日～3日までドイツ連邦共和国ハノーバー市のドイツメッセで開催されました。今年の会議登録者は過去最大の

953名、日本からも49名と多くの方が参加し、セッション、講演、展示が開催されたほか、各種テクニカルビジットも実施されました。展示団体は80団体と昨年と比べ非常に大きな規模となりました。

主な話題

今年のテーマは「ITS at the Crossroads of European Transport」となっており、その中でe-Safety、カーナビ・テレマティックス、プローブカー、ガリ

レオ、鉄道 ITS、2006 サッカーワールドカップ、2008 北京五輪などがトピックとして取り上げられました。

オープニング

オープニングセレモニーではドイツ連邦運輸・建築・住宅省の Manfred Stolpe 氏をはじめ、ハノーバー地区の副代表や ERTICO-ITS ヨーロッパ専門委員会会長など、5 名の方が会議開催にあたっての挨拶を行いました。

また、基調講演では、ドイツ電気・電子製造業協会の Edward G.Kurubasik 博士が、欧州の交通渋滞などの経済損失 (1,200 億ユーロ) を低減するために導入されつつある ITS などについて講演を行いました。

セッション

セッションは、ラウンドテーブル (3)、戦略セッション (9)、特別セッション (12)、テクニカルセッション (53) に分類され、計 77 の発表が行われました。

ラウンドテーブル

ITS のもたらす効果、欧州運輸拠点におけるマルチモーダルネットワーク、ITS 研究のロードマップ

戦略セッション

e-Safety、道路交通および旅行情報サービス、ITS の今後のニーズ、ITS の安全利用 (ヒューマン・マシン・インタラクション)、標準化 他

特別セッション

事故防止とアクティブセーフティー・アプリケーション (IP PreVENT)、車々間通信と協調システム、INVENT 他

テクニカルセッション



M.Stolpe氏による挨拶

位置情報サービス、都市の有料化と課金、デジタル地図 DB が実現する ADAS、ロードプライシング、EFC プロジェクト、デジタル地図 DB 他

テクニカルビジット

ハノーバー交通管制センター、ブラウンシュweig空港、シェンカー物流センター、ドイツ鉄道管理・情報センター 他

展示

出展分野は、テレマティックス、旅行者情報システム、電子料金・交通管理システム、中央制御室・交通管制システムを中心に、ERTICO のほか関連プロジェクトや自動車、電気・電子メーカーが展示を行っていました。なかでもフォルクスワーゲンはハノーバーがお膝元ということもあり、力を入れた展示を行っていました。

展示会場



訪問調査

会議中、ドイツの国家的なプロジェクトである INVENT に協力している民間企業の方と、プロジェクトなどについて意見交換を行いました。

チェコ共和国では、CDV (交通研究センター) を訪問し、チェコにおける ITS の現状や今後の計画などについてヒアリングするとともに、日本における ITS の取り組みを紹介し、意見の交換を行いました。

フランスのパリでは、日本でいう ASV の研究を行っている LIVIC を訪問し、フランスにおける現状を調査しました。LIVIC では高度速度制御に関するプロジェクト "LIVIA" と衝突防止に関するプロジェクト "ARCOS" の 2 つの大きなプロジェクトを進めているとのことでした。

おわりに

業務多忙の中、今回の調査に参加いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。また、行程中には色々なハプニングもありましたが、無事に調査・報告を終えることが出来たことを心より感謝いたします。

(企画開発部研究員、山口大輔)

ITS アメリカ年次総会、 ITS 欧州会議調査報告会を開催

はじめに

去る7月27日、当機構大会議室で、第15回ITSアメリカ年次総会と、第5回ITS欧州会議の調査報告会、並びに、IRF世界会議の報告会を合同で開催しました。

ITS アメリカ年次総会

今年のITSアメリカ年次総会は、“Connecting Ideas, Partners and Solution”をテーマに掲げ、VII (Vehicle Infrastructure Integration) の他、セキュリティ、セーフティー、旅行者情報に関するセッション、フォーラム等が多数開催されました。(詳細は本誌79号に掲載)

ITS 欧州会議

一方、欧州会議においては、「ヨーロッパの輸送の分岐点におけるITS」と題



会場風景

して、e-Safety 関連とプローブカー計画について多くの報告がなされました。

参加者

報告会開催について当機構関連の賛助会員、協力組織にご案内したところ、台風一過の暑い中、各社、機構より、60人ほどのご参加をいただき、アメリカ、ヨーロッパにおける最新情報と、訪問調査したITS事情に関する報告並びに、今年初めての参加となったIRFへの出展の報告を、皆様最後までご聴講頂き、参加された方々の海外のITSに対する関心の深さがうかがわれました。

今回は、報告者も多く、盛りだくさん

の内容であったため、予定時間を大幅にオーバーしての報告となりました。

ご協力をお願い

当機構では、例年、賛助会員や関連組織の方々からメンバーを募って海外調査団を編成し、ITS年次総会やITS会議・展示に参加し、現地のITS事情を調査する活動を行っています。

来年度につきましても、海外調査を行う予定ですので、ふるって現地調査にご参加いただき、報告書の作成や報告会にご協力いただきますよう、お願い致します。

(ITS統括研究部調査役、浅井富男)

『第7回アジア・太平洋地域 ITS フォーラム ニューデリー 2005』報告

インドにおける 記念すべきフォーラム

『第7回アジア・太平洋地域ITSフォーラム』が2005年8月9日から3日間、インド・ニューデリー市内のアショカホテルで開催されました。

南アジアで初の開催ということで、参加登録者は12の国・地域より275名と、近年のフォーラムと比較してやや小規模でしたが、インド政府から科学技術大臣、重工業大臣、都市計画大臣の3名の大

が出席し、欧米の関係者も参加するなど、目覚ましい経済発展が期待されるインドにおける、ITS普及のスタートラインとして、記念すべきフォーラムとなりました。

日本からは、合計24名が参加し、「日本のITS」と題したエグゼクティブセッションで日本のITSの状況について紹介するなど、各セッションで多くの発表が行われました。また、併設展示会には、7社・団体による「日本ブース」共同出展を行いました。



リボンカッティング・セレモニーの様子(右から、バジパイ AITS インド会長、シバル科学技術大臣、寺島 ITS Japan 専務理事、バルー・マレーシア労働大臣、モッセ ERTICO/CEO)

なお、当機構からは、辻常務理事が「スマートウェイ」と題して、国土交通省を中心に進められているITS関連政策の紹介を行いました。また、併設展示会においても、ITS HANDBOOK (2004-2005)の配布等を行い、我が国におけるITSの広報活動を行いました。「日本のITS」セッションは立ち見が出るほど多くの出席者を集め、また、ITS HANDBOOKは、フォーラム初日で配布用の在庫がなくなるなど、我が国ITSに対する各国の関心の高さがうかがえました。

世界の注目を浴びるインド

10億人という世界第2位の人口を持つインドは、近年IT大国として世界の注目を浴びており、2004年度には実質GDPで6.9%という高い成長率を示しています。このような経済成長にともなうインドのモータリゼーションは急速に進んでおり、自動車市場規模は5年後



辻常務理事の発表の様子

には年間200万台となるとの予測もあります。しかしながら、道路などの交通インフラの整備は遅れており、渋滞や交通事故が頻発しているのが実情です。今回のフォーラムを機に、ITSの必要性がインド政府に認知されたことで、官民一体となった今後の環境整備が期待されます。

会議の概要

- ・開催期間：2005年8月9日～11日
- ・会場：インド・ニューデリー アショカホテル(The Ashok)
- ・会議テーマ：‘Towards New Horizons’
- ・会議登録者数：275名(12カ国・地域)

インド150、マレーシア34、日本24、韓国20、台湾21、シンガポール8、中国4、豪州2、ニュージーランド1、欧州8、米国3(日本からは、警察庁・道路新産業開発機構・新交通管理システム協会・豊田都市交通研究所・愛知県立大学・東芝・トヨタ自動車・日本工営・矢崎計器・レシップが参加)

- ・セッション数：18セッション
エグゼクティブセッション4、スペシャルセッション3、テクニカルセッション11
- ・展示会出展者数：14(17小間)
日本共同展示(2小間)、欧州系Efkon社(2小間)、マレーシア企業(2小間)、シンガポール企業(1小間)、米企業(1小間)、インド企業8社、デリー交通局(日本からは、道路新産業開発機構・東芝・トヨタ自動車・日立製作所・松下電器産業・矢崎計器・ITS Japanの7社・団体が共同出展)
(ITS統括研究部副調査役、佐伯昌雄)

役員の変更

理事の変更がありました。

平成17年9月30日辞任 ————— 吉田悦郎常務理事、岡野行秀理事

平成17年10月1日就任 ————— 田島正興常務理事、杉山雅洋理事

編集後記

愛知万博(愛・地球博)は9月25日、185日の会期を終え、予想をはるかに上回る約2,205万人が入場するなど、大成功のうちに閉幕しました。会期中、ITS Japanを中心に、当奇機構も積極的に参画して実施した「ITS EXPO」や「自律移動支援プロジェクト」の実証実験などによって、進歩を続ける我が国のITSの実態をひろく世界の人々に知らせられたことは、非常に意義深かったと思います。

そこで、今号では、「愛・地球博」におけるITSの展開について特集しました。まず、日野

進氏(ITS Japan実用化促進プロジェクト部長)に、愛・地球博におけるITS Japanの取組みについて、おまとめいただきました。そして、当機構からは「自律移動支援プロジェクト」の実証実験について、ご報告しました。

市川勝氏の巻頭インタビューは、今回で終了です。3回にわたって、来るべき「水素社会」に関する貴重なお話をありがとうございました。

今号は「愛・地球博」関連ばかりでなく、当機構の多くの活動のご報告を掲載したので、豊かにカラーを使用し、増ページを行いました。(S)

TRAFFIC & BUSINESS

季刊・道路新産業

AUTUMN 2005 No.80 (平成17年11月30日)

発行 財団法人 道路新産業開発機構
〒104-0045 東京都中央区築地7丁目17番1号
住友不動産築地ビル2階
TEL 03-3545-6633(代表)
FAX 03-3545-6660
ホームページ <http://www.hido.or.jp/>

編集発行人 斉藤隆司
編集協力 株式会社リーブル
印刷 有限会社セキグチ

★本誌掲載記事の無断複製をお断りします。